

2020年度しょうえい幼稚園自己評価表 学校法人沼津頌栄学園 しょうえい幼稚園

評価者 園長 石川望 副園長 浅井喜世美 主幹教諭 2名 担任9名 副担任3名 補佐5名

1 経営理念

経営理念	キリスト教保育 創造(自由)保育(統合保育)	あそび・あそぶ・あそぼうから創造(自由)保育へ —みんなの違う輝きが一つとなる瞬間を—
------	---------------------------	--

2 経営目標・評価項目・評価

☆評価基準 よくできている ◎ できている ○ あまりできていない △ 全くできていない × 未記入 未

	経営目標	評価項目	評価					達成状況・改善策等	学校評価委員の意見
			◎	○	△	×	未		
つな がる 基 礎	1、園生活の基本を身につける。 2、目に見えない大切なものを生活を通して感じる。 3、絵本などを通してファンタジーの世界を広げる。	教師は礼拝・お祈りを楽しい中にも静かにいき、子どもたちの心を落ち着かせる。	11	10				<ul style="list-style-type: none"> • 出来ていると思う。 • 概ねできているが、日によっては落ち着かない子どもが何人かいる。 • 静かな様子で礼拝を行うことができる日もあったが、なかなか子ども達の心が落ち着かず、ザワザワとした中で、行う日もあった。できるだけ毎日礼拝を行い、出来ない日には、お祈りをし、神様はいつも私たちの近くで見守ってくださっていることを感じることができるようにした。 • 毎日の礼拝の習慣はできていて良いと思うが、少しだれてきている。時々、ホールでの礼拝ができるといいと思う。 • 礼拝中、隣のお友だちとお話をはじめてしまう子、椅子に座っていない子など個別に丁寧に声をかけたり、隣に座ったりしながらスムーズに行えるようにしました。 • 給食、おやつの時のみ。 • 段階をふんで礼拝をしていった。 • 3学期にはいすに座り礼拝をしたり、聖書のことばについて皆と考えることができた。 • 今年度は、コロナウイルスの影響のため、クラスでの礼拝でした。また、2歳児クラスの子供達にとっては椅子に座っての礼拝が初めてなので、どういう事をするのか、どういう事をしたらいいのか、お手本なるお兄さん・お姉さん達がいなくて、真似することもできない分、手をぎゅっして目をつぶるとどう聞こえるか、何か聞こえるか等、子ども達が考えられるよう静かにできるよう話をし、声を掛けていった。 • 落ち着いて礼拝を行えるように、子ども達の様子によって礼拝を短くしたり、素敵なお友達を認めたりと、先生方が配慮してくれていた。 	
		教師は、子どもたちが自由遊び後、スムーズに片づけられるよう促す。	9	12				<ul style="list-style-type: none"> • 時々お部屋から出てしまう子がいる。 • たくさんお片付けをしてくれる子に、みんなの前で「ありがとう」と伝えたり、お片付けの声掛けを子ども達にしてもらったりと、子ども達が協力して、片付けできるように促している。 • 片付ける場所を明確にして、片付けしたくなるような環境づくりも必要かなと思います。 • 同じ子ばかりが片付けているので、いろんな子に声掛けをしても、なかなかみんなでというのは難しい。 • 決められた場所に片づけを一緒に行い、片付け忘れがないか一緒に確認している。 • 楽しく片付けられるような声掛けをしている。 • 楽しく片付けができ、まだ遊びたい子にも子ども同士で声掛けする姿があった。 • 片付けの後は何が待っているか、楽しいことの期待が持てるように声をかけている。 	

		教師は、子どもたちが園生活のきまりが身に付くように援助すると共に、遊びを通して信頼関係を築く。	12	9			<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、4.5月が自粛登園だったこともあり、また新入園児の人数も多く大変だったと思うが、現在は皆楽しく過ごし良かった。 ・毎日クラスの子ども達全員と触れ合えるよう、午前、昼後、午後とそれぞれ違う子と話をしたり、遊びに関わりながら、それぞれの子どもとの関係を大切にしていきました。 ・食事のマナー（座って食べる、スプーンフォークの使い方）、洋服の着脱、靴の脱ぎ履き、片付け、自分の持ち物は自分の所にしまう）等、教師と一緒にやり、身につくようにする。 ・お集まり、声の大きさ、話をきくこと、椅子の座り方、テーブルの使い方、手洗い、上履きの履き方、そでやズボンのひっくり返し方、トイレの仕方、道路の渡り方、遊具の使い方など、生活をしながら都度伝えたり行ってきた。 	
		教師は子どもたちが保護者と離れる寂しさや友だちとけんかした時の悲しさ、その他様々な気持ちや思いを受け止め、共感する。	13	8			<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている。 ・共感できる時と、出来なかった時があるが、気持ちに寄り添っていく。 ・けんかの対応の時には、お互いの気持ちを受けとめ、対応するようにしている。 ・悲しさよりも頑張っていることを褒めて、何を楽しみたいか、楽しめる事を考えるよう声を掛けている。 また、トラブル時はその子だけでなく、相手の気持ちを伝えている。 ・子ども達が少しでも安心できるように、スキンシップを取りながら気持ちに寄り添うようにしています。 	
		教師はできるだけ毎日絵本の読み聞かせをする。	13	7	1		<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている。 ・どんどん新しい絵本を仕入れて頂けるとうれしいです。 ・朝の集まりや、お帰りの時に絵本を読んでいった。 ・礼拝時やお帰りの時に毎日読むように心がけている。 ・毎日1～3冊の読み聞かせをし、子ども達も興味を持って聞けた。 ・一緒に読んでいる。 ・全体での読み聞かせより1人1人が読んで欲しい本を持ってきて読む。 ・お集まり、食前など1日1冊は読むようにした。 ・全体に読ませる事はあまりないのですが、遊びの時に子ども達が持ってきたものを読んだり、なかなか支度をしない子に支度が終わったら読もうと見せたり、また食後（おやつ）にゆったりと過ごすときに個人に読んでいます。 	
		教師は、絵本の貸し出しや絵本の読み聞かせを通し、子どもたちがたくさんの絵本と出会うよう努める。	10	9	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃや道具・絵本など“皆のもの” ・子ども達の好きな絵本ばかりを読んでしまうが、絵本を知ってもらえるようにいろいろな絵本を読む。 ・少人数（クラス別・グループ別）で借りるようにしており、一人ひとりがじっくりと選び借りるようにしている。 ・クラスの絵本棚の絵本が一年を通して入れ替わることが少ないので、シーズンごとに入れ替えたり増やしていても良いのではと思う。 絵本の貸し出しもとても良いと思う。ただ、読んでもらえず返却している子も多く、読み聞かせて布団に入る子も少なくなっているこの世の中。 読み聞かせの大切さを手紙や講師を呼んで講演会などで伝えられる機会があるといい。 ・012歳児は各々保護者との連絡帳でのやりとりや保育室にある絵本から、興味のあるものを知り、教師が選んで読み聞かせをしている。 ・お部屋の本、手持ちの本が多かった。図書室をもっと活用する。 ・部屋にある本や月刊で届く絵本ばかり読んでいて、図書室から借りて読むことはなかったので、今後すてきな本がたくさんあるので、図書室で借りて読ませてあげたいと思います。 ・子どもたちの興味のある物や、クラスの遊び、季節に合わせた物など様々な本を読んでくれて、とても楽しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ図書室で借りて読ませてあげてください。

		教師は、子どもたちがお集まりや活動に積極的に参加できるように促す。	11	10			<ul style="list-style-type: none"> 時々お部屋から出てしまう子がいる。 導入を工夫し、子ども達がわくわくして活動したくなるようにしています。 集まり時に、ゲームやペープサート、手遊びなど楽しいことを行い、活動に参加したいと思えるようにしている。 手遊びや歌あそびをたくさんして気持ちをまとめる。 お集まりでは子ども達の好きな歌を取り入れ、歌詞カードを貼って皆で楽しく歌いながら自然と集まれた。 担任の先生が手遊び、絵本の読み聞かせなど楽しいことをしてくれるという事や、何が始まるのかなというドキドキ感が持てるように声をかけている。 でも、年少さんになる2歳児クラスなので、「集まって」という言葉でも行けるように頑張らせる時もある。 お集まりがいつも同じような流れなので、子ども達がわくわくするような楽しいことをたくさん取り入れていってほしい。 	
		教師は、子どもたちが遊びや活動を通し、たくさんの友だちとふれあい、仲を深めるよう支援する。	9	11		1	<ul style="list-style-type: none"> 出来ている。 クラス別だけでなく、グループ別で、クラスとは違う友だちと深く関わったり、異年齢での関りを通し、たくさんのお友だちとふれあうことが出来るようにしている。 たくさん仲間と触れ合いその中で自分と気の合う仲間を自分で見つけ、仲を深めていければいいと思う。 一人一人の仲間がどんな人かどんな素敵な場所があるか伝え、仲間に興味を持つきっかけ作りは必要かと思う。 教師との関わりから少しずつ友達に興味関心を持ち始め、自ら関わろうとする2歳児クラスの子供達なので、外に行くとき手をつなぐ事も「手つないで」といってみてね等声をかけている。おもちゃやブロックも「これ好き」と話になった時等、〇〇くん〇〇ちゃんも好きみたいだよ。と伝えたりしている。 	
ゆたかな心	1、命の大切さ・平和への思いを育てる。 2、意見を表明したり、相手の心を思いやる気持ちを育てる。	教師は、子どもたちが動物の誕生・成長・死を通して命の大切さを感じるよう見守る。	5	10	6		<ul style="list-style-type: none"> 樹木や草花など分かりづらいが（子どもにとって）生きていくということ大切に！お散歩の時など、いろいろなことを学んでほしい。 カマキリ、ちょうちょうが羽化する瞬間をみんなで共有できた。 カマキリの卵や、オタマジャクシなど観察し、命の大切さを学ぶことができた。 虫を握りつぶしてしまったり、ウサギを虐めてしまったりする場面があり、そうまる前にお話ししたり、絵本で理解できるようにしたりすればよかったなど反省した。 ウサギ・チャボと関わったり、ごはんをあげたりすることを通して命の大切さを伝えている。関わり方が分からず、ウサギをぎゅっと強くさわってしまった、アヒルを追いかけるお友だちもいるため、今後も伝えていきたい。 普段から動物に触れ合えたり、昆虫や小さな生き物をお世話する環境があたりまえにあるのでとても良いと思う。 えさ当番で教師と一緒に動物と触れ合う機会もあるので、命の大切さを感じることができると思う。一方で、上手に関われない子に（ウサギを執拗に追いかけたり）どうやって伝えていくか、課題だと思う。 あまりできていなかったと思うので、クラス全体で（グループに分けても）ウサギやアヒルそれぞれのところをまわり、改めて紹介したり、挨拶にいたり、それぞれがもっと動物に関心を持てるようにもっていったら良かったと思う。 昆虫を卵から飼って成虫になるのを見守ることが出来た。 ウサギ・チャボ・アヒルのお世話を一部の子供だけでなく皆で共有出来たら良かった。 わんぱく広場にあまり出ることができないため、動物と触れ合うことが出来ない。 昨年度から続けてテントウ虫の卵→幼虫→成虫になるまで観察し、（観察日記を綴って配った）その後は捕まえても放ってかえすなど、自分でするようになった。 去年末からてんとう虫を育てていて、4月に成虫になり、成長する過程を子ども達と共に楽しめました。また、その卵から成虫になった過程を見てきたことで、関心を持っているので、よく虫探しして楽しんでた。虫だけではなく、みかんや花などの植物にも大きくなーれと。 ウサギやアヒルへの関わり方が気になった時、クラス全体で触れ合い方を考えていった。教師が生きものの気持ちを代弁することで、子ども達も小さな命の大切さに気付き、優しく関わる姿が見られた。 	

	経営目標	評価項目	◎ ○ △ × 未					達成状況・改善策等	学校評価委員の意見
			◎	○	△	×	未		
ゆたかな心	1、命の大切さ・平和への思いを育てる。 2、意見を表明したり、相手の心を思いやる気持ちを育てる。	教師は、絵本などを通して子どもたちが平和への思いを強められるよう努める。	2	11	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとイエス様や平和関連の絵本を読めばよかったな、と思った。 ・かわいそうなぞう・ひろしまのピカなど絵本やお話から戦争の怖さを伝え、絵本の楽しさだけでなく、深さを伝えることが出来てとても素晴らしいと思う。 ・回数が少なかった。 ・内容が難しい子どももいるので、分かりやすい絵本も探してみる。 ・それを含めて、絵本の読み聞かせをしてあげたいと思います。 ・あまりできていないように感じます。 年齢に合わせて平和をテーマにした絵本を勧めてくださいと嬉しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本だけではなく、友達とのケンカ等日常生活をきっかけにしても良いと思います。 また、震災の事を取り上げてお話してあげても良いのではないのでしょうか。 ・園長、副園長がおすすめするようにします。 	
		教師はそれぞれのこどもの発達に合わせ適切な対応・指導ができるよう学び合う。	6	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・柳詰先生からのアドバイスがとても有難く学びとなっています。頂いたアドバイスを教師会で共有し合えると良いなと思います。 ・柳詰先生に来てもらい、それぞれの子どもの発達に合った声掛けなど学ぶことができた。これからも、教えてもらったことをいかしていきたい。 ・まだまだ勉強中。これからも勉強しつつ、アドバイスをもらい学んでいく。 ・子どもに合わせた対応を心掛け、情報の交換をしたいが、時間が取れない現状があった。17時以降に同学年担任の教師にどのような事があったか、どのように対応したら良かったかなど話し合った。(17時以降に時間が合わない時は電話だったり、連絡が翌朝になった。) ・関わっていて難しいと思う場面もあるが、柳詰先生からのアドバイスを聞き、また学年の先生と日々関わり方を試行錯誤しながら一緒に対応している。 子どもへの対応について学年の先生全員で話し合い、どんな関わり方が良いかを相談できる時間があるといいと思う。(なかなか保育中は話し合う時間がなく、勤務時間も教師によって違う時間がとれないため) ・インクルージョンという素晴らしい機会があり、とても勉強になっています。そこに名前が出されている子以外の子どもで気になる子をそのクラスの先生だけでなく、全体でどう対応していこうか共通の思いで関わられるよう、みんなで話し合い学び合っていける場があるといいなと思う。 ・いろいろな課題を持っている子どもが多いなか、教師同士が話し合ったり、勉強したりということが必要になってくるので、時には補佐も含めて、そのような時間を設けてほしい。 ・一人一人の対応をその都度教師で話し合い、それぞれに合わせた対応や声掛けをしていきました。クラスの教師内でももっとじっくり話し合える時間(なかなかそれぞれ退勤時間も違う時間がとれなかった)が、あったらさらに良かった。 ・毎月の個別指導案を作成し、担任・副担任と共有していくよう声掛けをしている。 ・個々の子ども達に対する対応の話し合いがなく、正職員だけで話し合っている。 ・個々の対応について情報交換、話し合いが日常的に行われたので良かった。 ・研修などがあれば参加したい。 沼幼研のリモート研修はみんなで意見交換しながら出来たので良かった。 ・毎月個別指導案をたて、教師間で話し合う。 ・1人1人とじっくり関わり、その子に合わせた援助や声掛けをさぐり、安心して楽しく園生活をおくれるようにした。 ・まだまだ月齢で、支度が出来る速さも違いがあるので、個々によって声掛けや援助していつている。 ・とても個性豊かなクラスで、対応に悩む事が多かったです。 柳詰先生がクラスに入ってアドバイスをしてくださり、とても助かりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひパート教師も関わるようにしてください。 教師会ノートを全員で確認することは、今後も続けていただきたいです。 		

<p>教師は、子どもたちが自分の意見や考えを出すことができるよう受け止め、同時にお友だちの意見を聞いたり思いを感じることができるよう促す。</p>	8	13				<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが話しかけたら即反応して、どうしても時は「ちょっとまって」そして必ず対応してほしい。 ・もっと子ども達の声に耳をかたむけ、遊びを繰り広げていけるようになりたいと思った。 ・少人数や、クラス別だと一人一人の意見や思いをいつもよりゆっくりと聞くことができ、子ども達の表情もいつもより生き生きとした安心した様子になる時もある。 ・年中で自分の気持ちや意見が言える機会を、朝や帰りの集まりなどで持ち、みんなに聞いてもらう経験をし、年長で自分の意見を伝えつつ仲間の意見を取り入れ話し合っって何かを決めていくという経験がもっとあっても良いかなと思います。 ・そのために大勢の前では意見を言うのが難しい子もいるので、グループでまず意見を出し合ってみたり、グループの仲間の前なら意見できるという子もいるので、グループ活動を取り入れると自分を出したり自分という人を分かってもらえるチャンスが増えると思う。 ・言葉で思いや気持ちを伝えることが上手にできない月齢なので、子ども同士の関りを見守りながら仲立ちしている。 ・話し合いの場では活発に意見が出された。 ・遊ぶ中でも、思いや考えが出せるよう1人1人の話を聞き、他児が話している時は耳を傾けることを伝えてきた。 ・友達のことが気になり、自分の思いだけじゃない事も気付けるようになってきているので良いこと・楽しいこともすてきな思いを共感してもらいたいと思うので、伝えるようにしている。悲しいことも嫌なことも口に出して伝えないと分からない事、何を言ったら何をしたらそういう気持ちにさせてしまう、なっちゃうという事も、少しずつでも分かってもらいたいと思う。 	
<p>1、保護者との意見交換を積極的に行う。 2、情報発信を充実させる。 3、子ども・保護者・教師共に育ちあう関係を作る。</p>	20		1		<ul style="list-style-type: none"> ・出来ました。 ・どんな表情か、どんな事を楽しんでいるか親目線で考え、写真は撮っているが、写真のみの手伝いをしているだけ。 ・しょうえいだより、毎月楽しみにしています。クラスの様子が分かって嬉しいです。 		
<p>園は学期に1回保育参観を行う。(3.4.5才)送迎時、保護者とのコミュニケーションをとる。</p>	5	6	7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスのため中止 ・参観はできませんでした。 ・送迎の方とはとれるが、バスの方とは連絡帳でできたでしょうか？保護者があまり書いてこない方にも時々様子を伝えたい。 ・門で受け入れをするようになり、送迎の方とのコミュニケーションはしやすくなったと思います。 ・保護者と会う機会があまりとれなかった。 ・コロナ禍で、保護者とも関わりも少なく、子ども達の様子もなかなか伝わらなかった。子ども達の様子が分かるような工夫をもっとできたらと思う。 ・今年度は、新型コロナウイルス対策のため、実施できなかったが、クリスマス会の配信で様子を少し伝えることができた。 ・コロナで保護者の方が園に入れなくなってしまい、コミュニケーションが少なくなった。 ・012歳児も夏ごろに面談を行い、園での様子など伝えたい。 ・保育参観は出来なかったが、ひみつ基地作りを親子参加(希望者)で行った。 ・何かあった時は必ず口頭で伝えるようにしている。 ・クラスにすることが多くあまり送迎時にコミュニケーションをとることが出来なかった。 ・参観や面談がないので、迎える時には様子やクラスの事も伝えるように意識している。 		
<p>保護者への講演会を年1回行う。</p>	2		1	8	10	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスのため中止。 ・来年はできるといいなと思う。 	

	園はホームページ・ツイッターで広く幼稚園を公開する。	10	7	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・参観がなかったり、保護者が園内に入らないので、より必要になってきた。 ・新入園の保護者はどのように過ごしているか、気になっていると思うので、もっとツイートをすれば良かったと思った。来年度はツイートできるようにしたい。 ・ツイッターでの日々の姿を見るのを楽しみにしている保護者の方が多くみられ、喜んでくださった。 ・012歳は保育中に写真を撮ることが難しい時がある。一瞬目を離したり、手を離したりすることで危険につながってしまう。 ・もっと学年での楽しいことを発信したかったが、色々な人が見られるという所がひっかかってしまった。保護者・職員限定のアカウントなどで発信出来たらと思う。 ・ツイッターへのアップの意識はなかった。 (絵本給食の時は写真を載せるのかなと思うが) ・ツイッターで子ども達の楽しそうな様子を見ることができて、お家の方も喜んでいて、もっとたくさんのお家の方に見て頂けたらな、と思います。 	
	保護者と教師とのコミュニケーションを深める。	5	12	4		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のタイプにもよるが、なかなか難しいです。 ・お迎えの保護者にはできるだけ対面し、その日の様子などを伝え、コミュニケーションをとるように努力した。 ・保護者からの悩みや要望など連絡帳を通し、丁寧に対応していてとても良いと思う。 ・意識しています。 ・012才も保護者との個人面談があると良い。(希望者でなく全員)参観・懇談会があっても良いと思う。(コロナで無理だが) ・今年は、ということはないが、012は迎えだけが、接するものなので、親としては、園での様子が知りたいと思うし、悩みがあると思うから、コミュニケーションをとって、すてきな子に共に成長させていきたいと思っている。 	
	園の行事を無理なく円滑に行う。	7	9	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナのため試行錯誤している。 ・コロナ禍で色々な変更を余儀なくされましたが、保護者の方達に子ども達の姿を見てもらうことが出来て良かったです。 ・早めの話し合いをしてほしい。 ・コロナで例年と同じようにはいかなかったが、状況に合わせて無理なく行えた。 ・他園も発表会は3才以上だったとのこと。SNS(保護者限定)も良かったと思う。 ・もう何年もいるので、やるものがあれば早めに動いている。 	
	支援センターともだちの開放、こひつじ文庫(はらぺこあおむしの会)、ショートステイなどを行い、園を広く知ってもらおう。	14	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナでどこへも行けない方がお家に引きこもらないように、新しいショートステイ(0~2歳児 3時間 500円)を作りましたが、良かったと思っています。ショートステイの利用者はなるべくともだちに遊びに来てもらっています。 ・支援センターではいろいろなイベントを行い、たくさんの方が園に来て下さった。支援センターでの活動は興味深く、勉強になることが多い。 ・コロナ中、ショートステイで園児以外の子を預かるのはどうか。“ともだち”も外部親子と接触することが多く(外遊び)気になった。 ・支援センターなどの広報活動をしている訳ではないが、休みの日に何をすればという質問や、保護者にイベントがある事は伝えている。 	
	日常の教師間の連絡体制	2	14	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく保育中に教師同士の話が長くならないようにしたい。 ・事後報告が多くあったので、あらかじめメモを取るようになる。 ・なかなか時間がなく、補佐の先生を含め学年の先生と保育について話し合う時間、子どもへの対応について相談したり共有したりする時間がなく、保育について話し合う時間があるともっと教師間で保育について学び合えると思う。 ・月に1度各クラスごと話し合う機会をつくり、どんな保育をしていきたいのか、その月に歌いたい歌や絵本活動などや心配な子の対応などを話し合い共通の思いを持ち保育をすすめていける良いと思う。 ・教師会での全体の話し合いをしたり、出席していない教師も毎日写真を送っていただき把握することができた。 ・012歳児は意識して行っています。 ・012際の教師間はできている。 ・毎日の教師会議事録がラインで見れるので、分かりやすく良かった。 ・何かあったら自分1人で動くのではなく、担任の先生や主任の先生に確認している。 	